

松戸市③

チーム名 【常盤平団地地区チームオレンジ】
タイトル 【団地に住む方々の交流と地域参加の活性化を促すためには】

1 自治体情報（令和6年9月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
500,082 人	128,996 人	25.9%	61.38K m ²
松戸市は こんなところ！	都心から 20 km圏に位置し、千葉県東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。		

2 活動の概要

開始時期	2017年6月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	体操や脳トレクイズなどの交流会
活動頻度	月に一度
参加費	無料
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	常盤平団地在住のオレンジ協力員（4名） 常盤平団地包括職員（1名）
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センターの相談員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

常盤平団地に住むひきこもりがちな高齢者にもっと外に出て頂き、交流する機会を持っていただきたいという思いから、オレンジ協力員に呼びかけ集まって頂いた。
--

4 活動内容

毎月第4木曜日13:30~14:30の中で体操、レク、脳トレを市民センターで行う。他催しもの同時開催することもある。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・参加者のニーズに合わせて、アンケートを取り気軽に集まれるように内容を考え、組み立ててきた。
- ・アドバイザーである包括職員の入れ替わりが短期間に重なり、引継ぎが曖昧になってしまったことがある。
- ・例年、認知症予防教室等と同時開催することで、集客や地域に根付いた集まる場所として定着することが出来ている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

今年度ステップアップ講座は開催出来ていない。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

地域の中で顔なじみの方ができ、交流の場として長年継続させていく事が出来ている。集いの場として、楽しみにしている声もよく出ている。

<課題>

チームオレンジの高齢化と人数減少により、活動の維持が難しくなっている。

8 チームのアピールポイント

長年継続的に行ってきたため、チームで顔なじみとなっている。上記の活動以外にも、介護者の集いや、オレンジパトウォーク等の様々な活動を共に行っていて、常盤平団地の様々な場所で積極的に活躍をしてくださっている。

9 今後の活動について

長年体操の講師をしていた、リーダー的なオレンジ協力員が今年度までと話している為、新たな講師を募っている。オレンジ協力員が減っている一方で、新たな参加者は少ないため、活動を継続していく為には住民の協力が不可欠となっている。今後も地域の集まる場として、継続的に行っていきたい。

松戸市④

チーム名 【オレンジ協力隊】
タイトル 【認知症の人と共に】

1 自治体情報（令和6年9月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
500,082 人	128,996 人	25.9%	61.38K m ²
松戸市は こんなところ！	都心から 20 km圏に位置し、千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。		

2 活動の概要

開始時期	令和1年10月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	傾聴訪問、パトウォーク、街カフェ・地域交流会への参加
活動頻度	月に1回～10回
参加費	無料
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（財源なし） ※上記の財源 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジ協力員 認知症当事者 地域包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3の基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3の基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

地域包括支援センターの働きかけにより、オレンジ協力員が地域個別ケア会議に参加し、認知症の人の地域課題を把握した。地域個別ケア会議で確認された課題として、認知症の人は予定を忘れてしまい、ひとりで地域活動等に参加することが難しい。又、自分の思いを人に話す機会が少ないということから、個別支援を開始した。

4 活動内容

- 月に1回2つのエリアで、オレンジパトウォーク実施（認知症当事者、オレンジ協力員、地域包括支援センター職員がチームになり、公共機関やひとりで外出が困難な高齢者・認知症高齢者宅等を訪問し、チラシ等で詐欺防止や体操教室の開催などの情報発信を行う）
- 年に4回、オレンジ地域交流会実施（企画準備を行い、テーマに沿った情報交換。参加者：ひとりで外出が困難な高齢者、認知症当事者、地域の方、オレンジ協力員、地域包括支援センター職員）
- これまで開催の難しかったエリアでの地域交流会開催
- オレンジ協力員個別訪問（認知症当事者宅を定期的に訪問し、傾聴・散歩支援を実施）
- オレンジフラワープロジェクト実施（マリーゴールドを育て、認知症普及啓発のため地域にプレゼント）
- 認知症サポーター養成研修、認知症予防教室、街カフェ、認知症高齢者声かけ訓練、介護者のつどいなどのサポート

パトウォーク



オレンジ地域交流会
～陽だまりカフェ～



オレンジ地域交流会
～ファッションショー～



オレンジ地域交流会
～ミニ運動会～



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- オレンジパトウォークでは、オレンジ協力員の意見を元に2つのコースに分け、個別訪問先での傾聴の時間を増やし、交流を深めている。
- 毎月のオレンジ定例会では、活動の実施方法を話し合い、実施後の振り返りを繰り返し行い、主体的に活動できるようサポートしている。
- オレンジ地域交流会の事前準備などの連絡手段に、小金オレンジグループライン（オープンチャット）を利用することにより、参加者を増やすことができた。
- 小金オレンジグループライン（オープンチャット）の発信により、情報共有が容易になった。
- 認知症サポーター養成講座を受講者に、地域包括支援センターからオレンジ協力員登録を案内。登録者には、センターが開催する毎月の定例会を案内する。他、個別に関心のある活動へ案内する。
- オレンジフラワープロジェクトは、猛暑の影響で育てるのが難しかったが、マリーゴールドのプレゼントはとても喜ばれ、普及啓発効果は高い。
- オレンジ協力員同士がつながりを持てるよう「助け合い冊子」をリニューアルした。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和6年度 オレンジ協力員ステップアップ研修

場所：小金市民センター 時間：10：00（1時間程度）

研修①4/17 講座『オレンジ協力員の活動について』グループワーク『プライバシーを守るとは』（講師：地域包括職員）

研修②6/19 講座『認知症と高齢者虐待』（講師：地域包括職員）

研修③10/16 講座『認知症の理解』（講師：地域包括職員）

研修④12/18 講演『認知症介護について～経験談～』（介護経験オレンジ協力員）

研修⑤10/25～11/6（内5日間）実習『傾聴実習』（実習先：特別養護老人ホーム）10名参加

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- 認知症に対する理解が深まった。
- コミュニケーションの大切さへの理解が深まった。
- オレンジ協力員同士の横のつながりが強まった。
- 認知症が他人ごとではなく、身近な問題として捉えることができるようになった。

<課題>

- オレンジ協力員の高齢化。
- 物忘れが目立つようになってきたオレンジ協力員との活動の進め方。
- オレンジ協力員が少ないエリアにパトウォークのニーズがある。
- 新規のオレンジ協力員がスムーズに活動に参加できような雰囲気作りや、サポートが必要。
- 小金オレンジグループライン未登録者へのタイムリーなアプローチの方法。

8 チームのアピールポイント

- 一緒にいると、優しい気持ちになれる仲間
- チームオレンジのメンバー皆が楽しめる活動

9 今後の活動について

- オレンジ協力員の活動をより主体的に進めるため、チームごとにリーダーを作っていきたい。
- オレンジ協力員の得意なことを活かす活動を広げていきたい。
- 新たに登録したオレンジ協力員がスムーズに活動に参加できるようフォローし、コアなメンバーに取り込んでいきたい。
- オレンジ協力員の少ないエリアに協力隊を増やしていきたい。

松戸市⑤

チーム名 【チーム♥KOGANEHARA】
タイトル 【モルックで広がる地域の絆と笑顔の輪 ～健康と世代間交流への新たな挑戦～】

1 自治体情報（令和6年9月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
500,082人	128,996人	25.9%	61.38K㎡
松戸市は こんなところ！	都心から20km圏に位置し、千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。		

2 活動の概要

開始時期	平成30年
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェ
活動頻度	週1回（毎週水曜日）
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（医療法人からの補助） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジ協力員（認知症サポーター養成講座修了者） ・地域の認知症高齢者、自立高齢者、介護者家族 ・民生委員、町会関係者 ・地域包括支援センター職員 ・病院
チームオレンジ コーディネーターの属性	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーター ・認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成30年、多くの方々からの希望を受け、地域のニーズに応える形で、地域包括支援センター主催の認知症カフェ「栗カフェ」がスタートしました。このカフェは、主に松戸市在住で、認知症サポーター養成講座を修了した「オレンジ協力員」を中心に運営されています。

内容としては、空き会議室を活用し、お茶やコーヒーを楽しみながらおしゃべりを楽しむコミュニティの場として機能すると同時に、地域包括事業を受託している医療法人が所有する畑を活用して、季節ごとの野菜の栽培や収穫を行う農作業も展開しました。この活動を通じて、野菜を育て、収穫し、食べる楽しさを共有する、地域に開かれた認知症カフェへと成長しました。

さらに、畑脇の空き地を活用して、フィンランド発祥のスポーツ「モルック」を取り入れました。このスポーツは高齢者にも楽しめるとしてメンバーから好評を得ており、女性だけのコミュニケーションの場だった認知症カフェが、男性も気軽に参加できる場へと広がる契機となりました。

令和2年、コロナ禍による外出自粛が求められ、一時活動休止を余儀なくされることもありましたが、屋内型の認知症カフェを屋外型に転換し、感染症対策を徹底しながら活動を継続することで、この困難な時期を乗り越えることができました。

令和5年からは、松戸市独自の生活支援コーディネーターである「多機能コーディネーター」が配置され、従来の活動を継続しながら、さらなる事業拡大を目的としたイベントも実施しました。これまでの畑作業やモルック活動に加え、院内の公認心理師による「音楽療法」や、参加メンバーが得意とするスキルや知識を共有する場が新たに設けました。特に、モルック活動の強化に向けて、モルックに関する世界ルールの勉強会を開催し、現在では認知症カフェのメンバーがモルック世界選手権出場を目指し、日々熱心に取り組んでいます。

「栗カフェ」は、地域住民の交流と活動の場として進化を続けており、今後もさらなる発展を目指していききたいと思います。

4 活動内容



- ・認知症カフェ（お茶・コーヒーを飲みながらのお話会）
- ・畑での農作業
- ・モルック
- ・脳トレ、音楽療法

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

【工夫・配慮】

・多様なプログラムの導入

野菜の栽培・収穫、モルック、音楽療法など、体験型や交流型の多様なプログラムを取り入れることで、参加者の興味や楽しみに応えた

・参加者の意見を取り入れる

定期的に参加者やその家族からフィードバックを集め、活動内容や運営方法を柔軟に改善した。例えば、高齢者でも気軽に楽しめるモルックを導入し、男性参加者が増えやすいプログラムを設けた

・コミュニケーションの工夫

認知症の進行具合により話しやすさや理解度が異なるため、ゆっくり話す、表情豊かに接する、適宜サポートするなど、安心感を持てる雰囲気作りを重視した

・家族や介護者への配慮

参加者だけでなく、その家族や介護者にも負担をかけない形での参加を促進。例えば、活動中はオレンジ協力員が認知症の方に寄り添い、家族が少しでもリフレッシュできる時間を確保した

【失敗・改善点】

・運営メンバー間の役割分担が不明確

運営メンバー間で役割が曖昧で、一部のスタッフに負担が偏ることがあった。これにより、継続的な運営が難しくなりそうな時期があった

・参加者のニーズの把握不足

初期段階では参加者の多様なニーズを十分に把握できず、活動内容が一部のみにしか響かないものとなった。例えば、身体を動かす活動を好む参加者が少なかったため、一部のプログラムが不参加者を増やす結果となった

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

- ・今年度は未実施

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・ 独居高齢者にとっての生きがいを見いだす通いの場になっている
- ・ 認知症の方やその家族が孤立せず、地域の仲間と繋がることで、安心感や心理的安定が得られた
- ・ 介護保険非該当者や要支援者のデイサービスまでの繋ぎの場となっている
- ・ 家族が認知症カフェを利用することで、一時的に介護から解放される時間が得られ、リフレッシュの機会となっている
- ・ 他の介護者との情報共有や交流を通じて、孤独感や不安が軽減された

<課題>

- ・ 継続的な活動のために、運営スタッフやボランティアの人数やスキルが不足する場面がある
- ・ 参加者の認知機能や身体機能、興味関心が多様であり、全員が満足できる活動を提供することが難しい
- ・ 一度参加しても継続して利用しないケースも見られるため、リピーターを増やすための魅力づくりが必要

8 チームのアピールポイント

- ・ メンバー同士が声を掛け合い、お互いを支え合う温かい関係を築いています
- ・ 初回参加の方にも既存メンバーが優しく接し、通いやすい雰囲気を作ることで、ファンが増えています
- ・ 常に新しいアイデアを取り入れ、活動を進化させ続けています
- ・ どのような困難な状況でも活動を止めず、前向きに変化を受け入れる強さを持っています
- ・ 参加者が「ここに来るとほっとする」「また来たい」と感じられる温かい雰囲気を大切にしています

9 今後の活動について

- ・ フィンランド発祥のスポーツ「モルック」の地域普及をさらに進め、参加者の健康増進と競技者層の拡大を目指します
- ・ モルックを活用して、認知症の方だけでなく若い世代や子どもも気軽に参加できるイベントを企画し、世代間交流を促進します
- ・ 参加者の得意分野や趣味を活かしたプログラムを取り入れ、自分の役割や、やりがいを感じられる場づくりを進めます

成田市①

チーム名 【カフェ緑の牧場】
タイトル 【みんなで語らい、笑顔になろう！】

1 自治体情報（令和5年12月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,279人	32,176人	24.14%	213.84K㎡
成田市は こんなところ！	本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。		

2 活動の概要

開始時期	令和6年12月4日～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	お茶会、おしゃべり会、医師による講演、楽器演奏、歌、マジック、たこ焼き等
活動頻度	毎月第4土曜日 午後1時30分～3時30分
参加費	会費・参加費100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター、精神科医師
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成28（2016）年から、認知症コミュニティカフェの活動を開始。チームオレンジの立上げに向けて圏域の認知症地域支援推進員が声をかけ、運営するボランティアが令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講。令和6年12月4日にチームオレンジ立上げとなった。

4 活動内容

認知症の方やその家族、地域住民など、誰でもゆっくり過ごせ交流できる場を提供している。現在、平均15～20名程の参加があり、主に軽い体操、歌、マジック等を楽しみ、おいしいコーヒーを飲みながら地域の人々と情報交換の場として利用している。



コーヒーを飲みながら
談笑しています。



楽器を奏でたり、歌ったり。
楽しい活動がたくさんあります。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

活動開始直後は包括職員や医師などがおらず、認知症の家族が相談に来ても、必要な行政サービスや介護・福祉サービスの案内ができなかった。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

歌や楽器演奏を通じて、参加者が元気に帰っていく。

<課題>

なし

8 チームのアピールポイント

近くで見守りながら、認知症の本人にもおしぼりを配ってもらったり、コーヒーを運んでもらったりしている。淹れ立てのコーヒーがおいしい。

9 今後の活動について

地域の交流の場、また認知症の方や家族の安らぎの場として活動を継続し、認知症普及啓発活動等を行っていく。

成田市②

チーム名 【オアシスの会】
タイトル 【認知症とともに、楽しく暮らせる成田】

1 自治体情報（令和6年11月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,279人	32,176人	24.14%	213.84K㎡
成田市は こんなところ！	本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。		

2 活動の概要

開始時期	令和6年12月16日～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	相談、普及啓発、ピアサポート
活動頻度	毎月第4水曜日 午後1時30分～3時
参加費	会費・参加費500円（年間）
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（認知症家族会補助金）
メンバー構成	成田市オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター、市役所、社会福祉士
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

市内に認知症介護者を支援する場がなかったことから、認知症の介護をしている人にしかわからない思いを共感し合い、介護の助言や地域の情報交換をする場が必要と考え、平成20（2008）年度に実施した市主催「認知症高齢者の家族等のつどい」を発端として、参加者が中心となり平成21年4月より発足した。

会員数名が令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講。令和6年12月16日に立上げとなった。市職員やオレンジコーディネーター（認知症地域支援推進員）が会の活動に参加し、情報提供や後方支援を担っている。

4 活動内容

ひとりで悩んでいるよりもより心が落ち着き安心できること、介護する者同士での問題解決や精神的な回復を図るため、主に認知症高齢者を介護している方の悩みの傾聴や共感、疑問点、対応の工夫などの助言・共有を行う。また、認知症になっても支え合い地域の中で暮らせることを目指して、講演会・交流会・勉強会・施設見学等を実施し、市が主催する認知症普及啓発イベントにも積極的に参加・協力している。



9月20日のなりたオレンジプロジェクト
合同啓発活動に参加しました！



10月19日の成田市健康・福祉
まつりにてブースを出展しました！

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・来た時に苦しい表情をしていても、笑顔で帰っていけるように工夫している。
- ・介護をしている人の犠牲者を出さないように、傾聴・共感を大切にし、介護疲れを少しでも軽減できるような対応を心がけている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

介護者のストレス発散の場になる。介護疲れや不安感を共有することにより、新たな気持ちで家族と向き合うことができる。

<課題>

支援者側のサポートの課題がある。参加者が自分の気持ちや介護の苦勞を気兼ねなく吐き出せるような体制づくりや声掛けができていないか。

8 チームのアピールポイント

認知症本人、家族の気持ちをチームのみんなで受け止め、肯定的な気持ちになれるよう支援している。堅苦しい雰囲気ではなく、落ち着いた雰囲気の中で気持ちを共有できる。

9 今後の活動について

本人、家族の気持ちに寄り添いながら、本人のケアのための情報やアイデアと一緒に考え、介護者自身も元気に過ごせるような場づくり、活動を行っていく。

成田市③

チーム名 【わっしょいカフェ】
タイトル 【みんなを笑顔に！わっしょい！わっしょい！】

1 自治体情報（令和6年11月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,279人	32,176人	24.14%	213.84K㎡
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和6年12月16日～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	お茶会、制作（手芸・工作）、おしゃべり会、その他（声掛け、見守り）
活動頻度	毎月2回 第2火曜日、第4木曜日 午前10時～11時30分まで
参加費	なし
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（区費、居場所づくり助成金） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、認知症の人の家族、地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

チームオレンジ三つの基本について ※2

3つの基本を満たしている

3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

地域の方が交流を持ちながら、元気になれる居場所づくりをしたいとの思いがあり、百歳体操を立ち上げた後、体操に来られない方の居場所づくりとして、何かできないか考えていた。

他地区で開催しているカフェに参加し、自身の地域でもできるのではいかと、コーヒーの淹れ方を教わり、歩いて行ける集会所を活用し「わっしょいカフェ」を立ち上げた。

会員数1名が令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講し、令和6年12月16日に立上げとなった。市職員やオレンジコーディネーター（認知症地域支援推進員）が会の活動に参加し、情報提供や後方支援を担っている。

4 活動内容

- ・淹れたてのコーヒーを提供し、話を楽しむ。
- ・季節に合わせた制作（クリスマスツリー、押し花コースターなど）を行う。
- ・生活の楽しみとなるよう、地域のイベントに声を掛け、参加者を誘い外に出る機会を増やしている。



ボランティアが美味しいコーヒーを淹れています！



もみの木の押し花コースターを作る様子

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

カフェの他、定期的に季節に合わせた制作活動を取り入れ楽しんでもらっている。利用できる地区を限定せず、他の地域にもカフェの案内を行っている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

地域の集まりの場が無かったが、通いの場ができた事で地域の方に喜んでもらえている。世代や障がい等関係なく交流の場となっている。

<課題>

仕事をしている方や若い世代も、カフェに協力的で思いがあるが参加ができていない。今後も現状の火・木の月2回で開催。続けていくことで、次世代へつないでいく事を考えている。

8 チームのアピールポイント

約60世帯の地区のため、皆が和気あいあいとしている。仕事や介護など、お互いの家庭の事情も理解しあって無理ない活動を心掛けている。また、コーヒーを淹れるボランティアの他、気持ちよく集会所を使って貰おうと草刈りをして下さる方や、家で咲いた花を飾ってと持参される方、家が遠い友人を心配して送迎をしてくださる方など、各々がカフェのためできることを自然に行っている。

9 今後の活動について

認知症や障がい等があっても、誰もが安心して来られるようなカフェづくりを行っていきたい。

成田市④

チーム名 【 公津の杜手芸クラブ 】
タイトル 【誰もが気軽に参加できる手芸クラブ!】

1 自治体情報（令和6年11月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,279人	32,176人	24.14%	213.84K㎡
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和6年11月26日～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	制作（手芸・創作活動）
活動頻度	毎月第2金曜日、第4月曜日 午前9時30分～
参加費	なし。材料は持ち込み。
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

参加者が認知症を発症した事や、地域包括支援センターの総合相談からの個別支援で「認知症なってもデイサービス以外で、仲間同士で手芸が楽しめる所について」の相談があったことから、認知症地域支援推進員の呼びかけにより、認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ講座を受講。認知症の理解や対応・接し方、地域での支え合いについても一緒に共有しチームオレンジの結成に至った。

4 活動内容

地区の住民より「地域の身近な場所で手芸ができる交流の場」についての相談があり、令和5年10月から活動を開始。現在10名程の参加があり、会話を楽しみながら編み物や刺繍等を作成している。だれもが気軽に参加できる手芸クラブとして活動し、今年度は、作成した作品を成田市健康・福祉まつりにて展示する等、認知症啓発促進活動や就労的支援活動を広げている。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

公津の杜手芸クラブは、それぞれが好きな作品を作成しながら参加者と一緒に認知症当事者やその家族とのコミュニケーションを大切に活動している。また、地域の方から認知症促進活動としてシンボルカラーである「オレンジ色」をデザインとし、「ORANGE 胡蝶蘭」の作品を市内の公的機関や地域包括支援センター等に展示。作り手の方や地域の方と一緒に公津の杜手芸クラブの活動が広がっている。



認知症啓発ポスター



ORANGE 胡蝶蘭

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

参加者同士でちょっとした見守りや自宅から通いの場までの送り迎えが自然とできている。また、参加者の中には民生委員を経験された方や介護経験者、介護スタッフの方もいるため認知症当事者の家族のピアカウンセリングにもなっている。活動の継続により、作成した作品を成田市健康・福祉まつりへ展示活動を行うことができた。

<課題>

手芸用品は持ち込みで予算がない。受入れ人数の課題がある。

8 チームのアピールポイント

公津の杜手芸クラブは誰もが気軽に参加可能。参加者の中には、民生委員を経験された方や介護経験者、介護スタッフの経験者がいるので、認知症当事者やその家族も安心して活動に参加できる。

9 今後の活動について

地域の身近な居場所として活動を継続し、認知症マップを作成しながら普及啓発活動等を行っていきたい。

成田市⑤

チーム名 【壮年クラブ】
タイトル 【みんなで地域に住む人を元気にしよう】

1 自治体情報（令和6年11月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,279人	32,176人	24.14%	213.84K㎡
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和6年11月26日～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	体操・運動
活動頻度	毎週火曜日、第1金曜日 午前9時30分
参加費	なし
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの種類 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

元々は地区の壮年クラブ活動のみであったが、令和元年5月より介護予防のための体操（なりたいきいき百歳体操）を導入。現在の参加者は15名程。自分自身の健康面や仲間同士で、もの忘れの心配や親の介護等の悩み事が段々と増えた。「なじみの関係性」を大切にしながら仲間同士の支え合いを継続するため、会員数名が令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講。令和6年11月26日にチームオレンジの結成となった。市職員やオレンジコーディネーター（認知症地域支援推進員）が会に参加し、情報提供や後方支援を担っている。

4 活動内容

主な活動はなりたいきいき百歳体操の実施。体操のほかに成田市高齢者クラブ連合会の行事や自治会の清掃活動、市のクリーンハイキング等の行事へも参加している。



壮年クラブのみなさん



オレンジリングを身に着けています

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

参加者が自分のペースで体操が行えるように、雰囲気づくりにも工夫している。また、体操の他に市の出前講座の活用や地域の清掃活動等に参加することで、社会参加を通しながらの活動となった。



なりたいきいき百歳体操の様子

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

自分自身の健康意識を高めながら、参加者とのコミュニケーションを大切することができた。なりたいいきいき百体体操は声を出しながら行う体操なので嚥下機能の向上や認知症予防にも力を入れている。専門職による体力測定や地域包括支援センターの職員の参加もあるので身近な相談窓口にもなっている。

<課題>

活動への継続と受入れ人数について

8 チームのアピールポイント

地域住民やオレンジサポーター等で構成されているチーム。介護予防と居場所づくりを大切にしながら仲間同士で支え合い、地域活動にも積極的に参加していく。

9 今後の活動について

住み慣れた場所で地域の方々と日々の生活が楽しめるように身体づくりや認知症予防を行っていく。認知症の相談があった場合は、チームみんなで支えながら地域包括支援センターとも連携する。